

新田郡家跡の周辺

遺跡の周辺では、奈良時代～平安時代の重要な遺跡が数多く発見されています。南方では、東山道駅路と推定される2本の道路（牛堀・矢ノ原ルート、下新田ルート）が発見されています。この道路は、いずれも幅10mを超す大きな道路です。東方では、群馬県でも最も古い寺である寺井廃寺があることがわかっています。西方では、瓦葺の礎石建物跡が発見された入谷遺跡、貴重な唐三彩が出土した境ヶ谷戸遺跡などがあり、この地域が新田郡だけでなく、上野国でも重要な場所であったことがわかっています。



推定東山道駅路（下新田ルート）



推定東山道駅路（牛堀・矢ノ原ルート）



寺井廃寺の軒丸瓦



太田市域と遺跡の位置



唐三彩陶枕（境ヶ谷戸遺跡）



入谷遺跡の礎石建物跡